式で機械的記録を施し，その後機械操作に移るのである。穿孔の位置はそれぞれ特定の意味をもっているから，これらの穿孔カードが種々な目的をもった自動処理機にかけられると記録内容が正確に読みとられ，仕事の性質・目的等に応じて分類・整理に必要な操作が全部自動的に行われるのである。

穿孔カードの一例(図-1・2)。

1　統計機械の種類

統計会計機械組織における一連の機械設備のうち，通常不可欠の機種，すなわち事務処理上の基本的経過要素を処理するための機種に該当するものを基本機械と名づけ，そのほか仕事のあらゆる事務工程をより完全に，より能率的に機械化する手段として使用されるものを補助機械，あるいは特殊機械といっている。

基本機械は (1) 穿孔機　原票上の必要項目をコード化したのち，設計されたカードの所定位置に，所要事項を穿孔の形式で記録する仕事をする機械 (2) 検孔機　穿孔されたカードをその穿孔の正否を確かめるため検査する機械 (3) 分類機　検孔されたカードを仕事の内容・要求に応じて適当に自動的に分類・整理する機械 (4) 印刷計算機　分類整理の終ったカードの穿孔内容，すなわち原票記載事項を適当な印刷様式に印刷し，あるいはその数量項目を加減算して，結果を自動的に製表する機械の4種で，これらは互に有機的な結合ないし関連性をもっていて，1つの仕事の本体を形造っている。したがって個々の機械を単独に使用するのでは，ほとんど意味もないし用もなさないのである。この機械組織は一般的にいって総合的な機械の活用によって，はじめてその偉力を最大限に発揮できるような仕組になっている。

補助機械のおもなるものには照合機，調合機，再製機，総括合計カード穿孔機，計算穿孔機，翻訳機，翻訳転書機等がある。

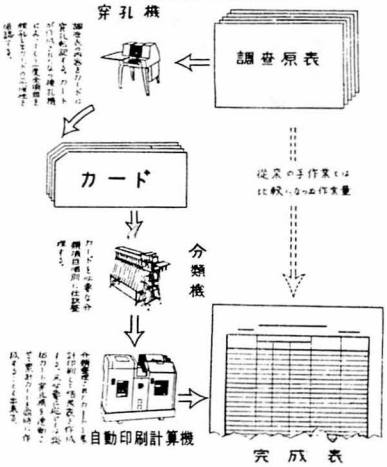
機械統計の基本的な作業順序を図示すれば図-3のとおりである。

2　国鉄における機械統計

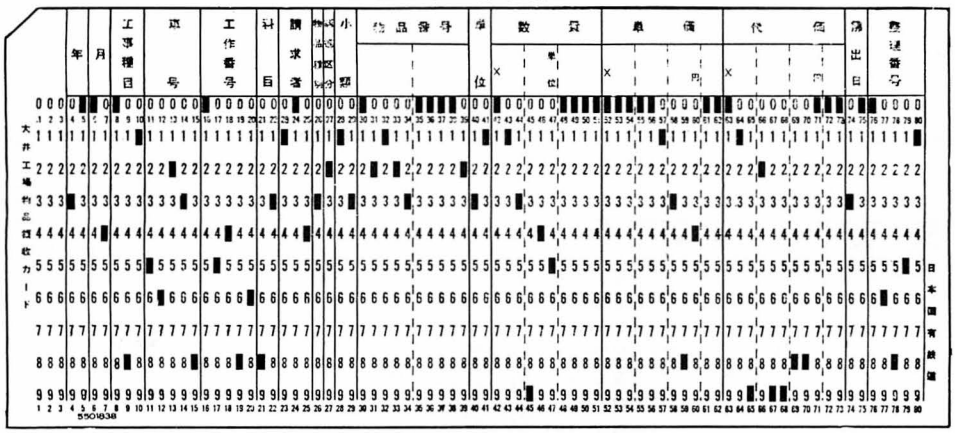
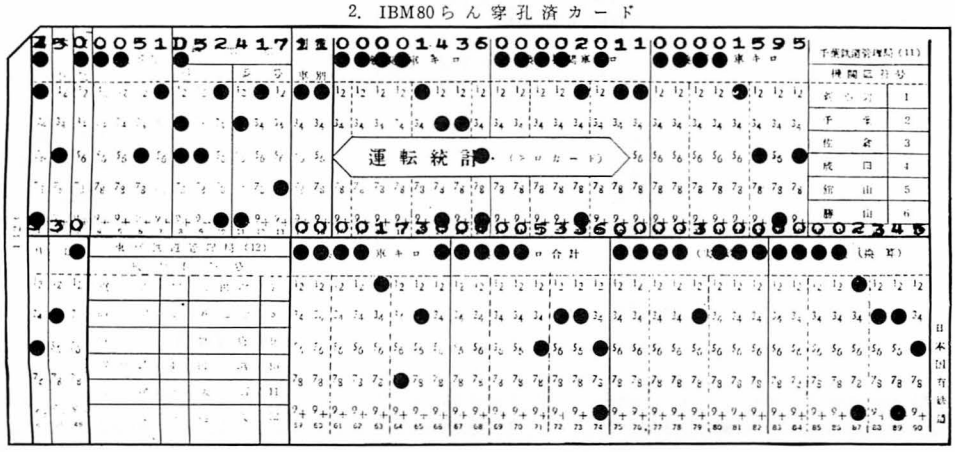
(1) 沿　革

国鉄では大正12年(1923)にパワース式（レミントンランドの前身）1組を輸入し，機械統計の研究に着手した。大正15年にはこの機械を344台(自動穿孔機151台，検孔機95台，分類機51台，印刷計算機47台)を輸入し，これをもって翌昭和2年から主要貨物統計を主体として機械化を実施した。しかし第2次世界大戦によって，統計事務は停止せざるを得ない状態となり，機械統計は昭和20年(1945)に作業を停止して機械の安全疎開に着手したが，その半ばにして戦災を受け惜しくもその大半を喪失した。昭和24年秋，残存機械を整備して機械統計の再建を図ったが，要員事情から自営が困難であったので，財団法人運輸調査局に作業を委嘱して再開したのである。その後最新型のレミントンランド式を購入すると同時に，インターナショナルビジネスマシン式をも借入れて作業能力の強化を図り，戦前にまして常時20種類に近い統計類を消化するに至った。なお最近苗穂工場，大井工場，仙台鉄道管理局等で試行的にパンチ式統計機械統計組織を採用している。

3. 機械統計基本的作業順序



1. RR90らん穿孔済カード



2. IBM80らん穿孔済カード